

市民活動・ボランティアを始めたい人にも…

市民活動 ニュース

活動・ボランティア



2007年

8

月号

平成19年7月25日発行
通巻104号

MIE NON-PROFIT ORGANIZATION & VOLUNTEER NEWS

◆発行◆

514-0009
津市羽所町700番地
アスト津3階
みえ市民活動ボランティアセンター
Tel.059-222-5981
Fax.059-222-5971
E-mail seiknpo@pref.mie.jp
NPO室のホームページ
<http://www.1.mienpo.net/npot>
三重県のホームページ
<http://www.pref.mie.jp>

市民活動・ボランティアニュースは
こちらにあります!

【地域の市民活動センター等】

●津市●みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/分部分会/津中央郵便局ボランティアコーナー/(有)デザインオフィス萩野 ●四日市市●四日市市民活動センター/寺子屋プロジェクト ●亀山市●亀山市民協働センター ●鈴鹿市●市民ネットワークすずかのぶどう ●松阪市●三重中央大学/松阪市市民活動センター/松阪まちづくりセンター『まちの駅松阪「寸庵」』 ●伊勢市●特定非営利活動法人伊勢志摩NPOネットワークの会/いせ市民活動センター ●鳥羽市●鳥羽NPOネットワークセンター・結 ●名張市●名張市立図書館/名張青年会議所/皇学館大学名張キャンパス/名張市総合福祉センター/エコリゾート赤目の森/名張市市民活動支援センター/くらしの情報センター同夢 ●伊賀市●ウリアム・テルズアップル まちづくりセンター/伊賀市中央公民館/伊賀市立図書館/上野青年会議所/伊賀市市民活動支援センター ●明和町●めいわ市民活動サポートセンター ●南伊勢町●南伊勢町町民文化会館
【地域の社会福祉協議会】県内の市町村社会福祉協議会
【金融機関・企業等】百五銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/第三銀行各店/メディカル光各調剤薬局
【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(各県民センター)(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、南勢志摩、伊賀、紀北、紀南)/三重県栄町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/富宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター『フレンドみえ』/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/各市町役場

平成19年度NPOからの協働事業等提案(事業の構築・推進を目指した事業提案) ~新たな広聴の仕組み実践・提案プロジェクト~

県が直接県民と対話するような広聴の場においては、時には対立構造となる場面が見受けられ、せっかくの対話の機会が十分に活かされないことがあります。

そういった市民対話型の広聴の場を民間がコーディネートすることで、対立構造を和らげ、議論の中に潜む重要な課題を引き出すなど、不毛な議論を最小限にとどめることができるのではないのでしょうか。

今回の事業提案は、市民対話型の広聴の場づくりを、民間と県が企画段階から話し合い、実験事業として実施するというものです。実験事業は県民が主催で行い、地域で県民の活動を支援している中間支援組織(※)が、より県民に近い立場でコーディネートします。県民が主催するという点だけでも大きな変化であると考えています。さらに、実験事業の中から得られた課題をもとに、新たな広聴の仕組みを、検討していきます。

県の仕事である広聴の分野に民間のアイデアを加え、新しい視点に立った広聴の仕組みを考えたいと思っています。

●問い合わせ先/特定非営利活動法人いせコンビニネット

ホームページ <http://www.e-ise.net> E-mail skc@e-ise.net

※一般的に中間支援組織とは、地域の変化やニーズを把握し、異なる主体(NPO、企業、行政など)の仲立ちをしたり、NPO間のネットワーク促進や、調査研究や政策提言を行い、地域社会における共生と協働を目標に、地域の課題解決のための様々な支援をする組織のことをさします。

つながる つなげる 28 県ボランティアセンター 北出真由美

こちらの写真は来る9月22日、23日に愛知県内で開催される「第16回全国ボランティアフェスティバル あいち・なごや」のチラシです。

この全国ボランティアフェスティバル(以下、略してボラフェス)は開催地の社会福祉協議会が中心となり、県や市町はもちろんのこと、学校、大学、地元の産業関係など本当に多彩な機関が関わり、全国のボランティア活動に携わる人々を対象に開催されます。

私は一昨年、熊本県で開催されたものに参加したのですが、印象的だったのは、地元のお祭りや併せて開催されたこともあってか、本当に開催地全体でのボラフェスだったことです。

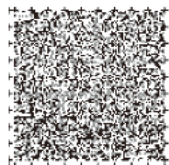
こうした催しものはその会場内だけが異空間となり、会場を一步出ると、「さて、今晚のおかず何にしようかなあ」という具合に余韻が残ることもなく、日常と隔離されてしまっているものがほとんどです。また、そういうものであるという考え方もあるでしょう。でも、ことボラフェスに関しては、「ボランティア」がテーマとなっていて、その「ボランティア」の目指すもののひとつに、いかに人々の日常に溶け込めるかがあると私は思っているの、熊本で味わった会場内だけではない「まち全体で」という雰囲気がとても印象に残りました。

さて、今回の愛知県でのボラフェスでは、どんな空間を味わうことができるでしょうか、今から楽しみにしています。ちなみに開会式、レセプション、2日目の52もある分科会など申し込みが必要なものがあります。しかし、申し込みは7月31日まで!どんな内容?ちょっと気になるという方は急いでこちらを!

<http://www.vf-aichi-nagoya.jp/>

SPコード

右にある図形は「SPコード」と呼ばれる二次元コードです。視覚に障害を持つ方が「スピーチオ」と呼ばれる専用の読取機を使用することで、ここに記録されている情報を音声で聞くことができます。



情報をお寄せください。市民がつくる市民活動の情報です。
ホームページ版、朗読テープ版もあります。お気軽にお問い合わせください。

はじめの一歩

これから市民活動・ボランティア活動を始めたという方、始めたばかりという方の疑問などにお答えします。

NPOの組織運営のむずかしさ

目の前の活動に追われて、現場ではなかなか考える余裕がないことかもしれませんが、NPOにとって組織をどのように維持し、運営していくかは重要な課題です。資金面で苦しい団体もあれば、組織内の人間関係の面でうまくいっていない団体も多いようです。

単に「あの二人は仲が悪い」とひとことで片付けられることではなく、もっと理由があるのではないのでしょうか。同じ目的のために集まった仲間であるにもかかわらず、意見はまとまらず会議が進まないのはなぜなのでしょう。

会社なら資本を集め、事業を行って利益を追求することに異論はないでしょう。NPOではそうはいきません。利益を目的としないうえにひとりひとりの問題意識が違っていても参加が可能な「開かれた組織」であるがゆえに、ものの見方や考え方もさまざまであるということが大きな理由のようです。

NPOの組織運営は、もともと難しいものだといえそうです。そのため会議や会員同士のコミュニケーションをひと工夫したりすることによって、情報をうまく共有できるかどうかひとつのカギになるのではないのでしょうか。

三重県生活部NPO室 堀木俊哉

みなさんへのお知らせ

特定非営利活動法人認証申請団体と成立団体のお知らせ

特定非営利活動法人(NPO法人)申請は4団体ありました。

申請のあった団体と成立した法人を紹介します。なお、関係書類は三重県生活部NPO室に備え置いてあります。

●認証申請団体

(1)名称(2)代表者氏名(3)法人事務所の所在地

【1】(1)ピアサポートみえ(2)松田慎二(3)津市大門7番15号津センターパルス3階津市市民活動センター内

【2】(1)三重県新エネルギー普及促進協会(2)鬼頭孝治(3)鈴鹿市東旭が丘四丁目10番36号

【3】(1)すずか希望の里(2)中川一春(3)鈴鹿市南堀江一丁目13番34号

【4】(1)ありがとう三重(2)水野 洋(3)鈴鹿市石垣一丁目4番1号

(平成19年6月10日～平成19年7月9日申請分)

●成立した特定非営利活動法人(登記年月日)

松阪障害者労働センター・ポケットハウス(平成19年5月30日)/呼夢・フレンズ(平成19年6月13日)/天満浦百人会(平成19年6月13日)/研鑽ライフセンター(平成19年6月11日)

(平成19年6月10日～平成19年7月9日届出分)

寺雅也前多治見市長、2日は三谷哲央三重県議会議員、3日は小林博次四日市市議会議員。このほか、岩名秀樹三重県議会議員に議会基本条例を制定した経緯をお話いただきます。誰でも参加OKですので、ふるってご参加ください。

●問い合わせ先/四日市大学総合政策学部 竹下

E-mail rd8ytkst@yokkaichi-u.ac.jp

【子育て広場・ドロップイン イベント】



あそぼうかい

かるがもくらぶに遊びに来ませんか。

●とき/8月3日・10日・31日(全て金)10:30～12:00

●ところ/子育て広場・ドロップイン事務所

●参加費/一般300円、小学生200円、会員無料

●内容/毎週金曜日、子どもたちを遊ばせながら、ママたちはのんびりおしゃべり!初めての方大歓迎!!夏は水あそび・プールで遊びます。お弁当を持ってきて一緒に食べましょう。

自己尊重トレーニング

●とき/8月24日(金)10:00～12:00

●ところ/富田地区市民センター 和室

●参加費/一般500円、会員200円(事務所にて託児あり。子どもひとりにつき200円)

●内容/あなたは自分のいいところが、いくつ言えますか?だめなところはたくさん思いつくのいいところは...っと思っているあなた!このトレーニングを始めてみませんか?自分のいいところに気付くと、夫や子どものいいところもきっと見えてきますよ。

森であそぼ! 8月プレイベント

●とき/8月27日(月)10:30～14:00

●ところ/県民の森駐車場

●参加費/一般・大人300円、子ども100円 会員・大人200円、子ども100円

●内容/県民の森の生産の森の辺りで芝すべりなどして思いっきり遊びます。自然の中で親子で一緒に育ちあいましょう。

●持ち物/タオル、帽子、着替え(長袖・長ズボン)、水筒、お弁当

●問い合わせ先/四日市市富田1丁目8-11

子育て広場・ドロップイン Tel.&Fax.059-363-3728

E-mail smile_dropin@yahoo.co.jp

ホームページ http://www.geocities.jp/smile_dropin

イベントスケジュール



シャローム イスラエル ～イスラエルを知る会三重～

●とき/8月1日(水)開場18:30、19:00～21:00

●ところ/アストホール(アスト津4階) ●参加費/無料

●内容/「イスラエル」という国に、皆さんはどのようなイメージをお持ちですか?日本の文化や武道に親しむエリ・コーヘン駐日イスラエル大使に、美しい国「イスラエル」をご紹介します。その他、パネル展示や映像上映もあります。

●主催・問い合わせ先/シャローム イスラエル実行委員会(担当:イツハック・メダン)Tel.080-6950-5400

平成19年度公開授業

議員とともに考える『地方議会論』

●とき/8月1日(水)～3日(金)10:00～15:00

●ところ/四日市大学9号館2階

●参加費/無料、事前申込不要

●内容/この講義は自治体の議会の皆さんを中心にして、市民(県民)と学生と一緒に話し合うという形の講義です。今年是全国のいろいろな自治体で導入が検討されている「基本条例」をテーマにします。全国的に有名になっている3つの自治体の基本条例を実際に策定した市長や議員を招き、講演などを行います。1日は西

号を持参のこと)

●内容／高齢者の自立を促す介護理論と明日から使える介護技術の講習です。講師の三好春樹さんは生活とリハビリ研究所の代表であり、年間180回を超える講演と実技指導で、現場に絶大な支持を得ている介護分野の第一人者です。

●募集人数／200人 ●申込方法／郵送またはFax。

●申込・問い合わせ先／516-0806 伊勢市御園町上條157-1 デイサービスふるさと(担当:西山尚子)

Fax.0596-36-1350

●主催／NPO法人まみいはんど、デイサービスふるさと

映画上映「ビリーブ」

●とき／8月12日(日)開場13:00～、開演13:30～
●ところ／鈴鹿市民会館

●参加費／大人1000円、高校生以下・障害のある方500円
※車椅子の方は事前に下記までご連絡ください。

●内容／知的発達障害の人々の姿を描いたドキュメンタリー映画「エイブル」「ホストタウン」に続く第3弾。舞台は2005年冬、知的発達障がいのある人たちに、日常的なスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供し、彼らの社会参加をサポートする国際的なスポーツ組織であるスペシャルオリンピックスの冬季大会・長野。知的発達障害のあるアスリートと同じハンディを持つクルーが記録する。彼らを知らない人にとっては信じられないこの出来事は、すべて“信じる”ことから始まった。

●問い合わせ先／中川 Tel.090-3583-4728

木田 Tel.080-3615-8006

●主催／スペシャルオリンピックス日本・三重

夏休みの宿題助っ人 留学生の母語による学習支援

●とき・ところ／二日とも10:00～16:00

8月22日(水)鈴鹿市桜島小学校「エスペランサ教室」

8月23日(木)松阪市第二隣保館(にじ教室)

●内容／三重大大学の留学生たちが母語(ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語)で、子どもたちの宿題や勉強を教えます。悩みなどでもできる範囲で一先懸命答えます。このほか、三重大大学の研究を紹介したり、一緒にお弁当を食べ、歌や遊びなども楽しんだりします。

●主催・問い合わせ先／三重大大学国際交流センター福岡研究室(担当:福岡昌子准教授) Tel.&Fax.059-231-9698

E-mail fukuoka@cie.mie-u.ac.jp

キッズシアター チェコアニメコレクション

●とき／8月25日(土)A9:30～10:30、B10:45～11:45、A12:00～13:00／26日(日)B9:30～10:30、A10:45～11:45、B12:00～13:00

●ところ／伊勢進富座

●料金／800円(大人・子ども同料金) 親子ペアチケット1400円(前売のみの販売・電話予約可) 2歳以下無料

※A、Bの両方をご覧になる方はチケットを2枚、お求めください。

●内容／良質な作品を生み出すチェコアニメ。日本のアニメとはひと味違う世界をお楽しみください。託児は子ども一人200円(要事前申込)で行っていますが、場内には小さなお子さんも入っていただけますので、一緒に鑑賞していただくことを、おすすめします。

【A番組:ズデネック・ミレル作品/字幕なし・5作品60分】

ズデネック・ミレルはチェコの人なら誰もが知っている国民的キャラ



「CSR」とは、企業も社会の一員として、さまざまな角度から、地域社会などに対し、責任ある行動を取ろうという考え方です。

「ふれあいたいせつ」～お客様や地域の方々に満足していただけるような企業を目指しています～
ぎゅーとら

「ぎゅーとら」の名前の由来は、昭和3年(1928年)に大阪に精肉店を開業する時に、鬼門の方角と嫌われていた「ウシトラ」の方角(東北)に出店したことから「うしとら」の屋号が生まれました。精肉・惣菜を販売し、鬼門の方角でありながら大繁盛しました。また肉の「うし」と創業者である清水虎吉の「とら」を合わせた「うしとら」の意味もありました。

昭和24年に伊勢市で開業するにあたり「ぎゅーとら」と呼ばれるお客様が多かったことから、現在の「ぎゅーとら」の呼び名に至っています。現在北は津市、南は志摩市まで23の店舗があります。

～「食」を通じて、『美味しさ』『健康』『感動』を発信します～



2007年5月伊勢市早朝清掃参加者102名

●お客様の信頼にお応えできるようISO9001・14001を経営のツールとし、鮮度管理、品質管理を行ない、常に商品の「安全・安心」を最優先した商売を行なっています。またコンプライアンス、地域の条例、社外との協定を守り、「ぎゅーとらなら安心」とお客様に思っていただける企業を目指しています。

●環境活動では「マイバック持参運動」「資源回収活動」「清掃ボランティア活動」に積極的に取り組んでいます。「マイバック持参運動」では、現在全店平均25%という全国的に高い数字になって

います。また「資源回収活動」ではお客様が家での置き場所に困らないように、買い物したときにお客様の悩みを解決できるように、店頭で資源回収を全店で行なっています。「清掃ボランティア活動」はCSR活動の一環として、積極的に全従業員が参加しています。毎年10回ほど地域のボランティア清掃がありますが、地域の皆様と身近にふれあう大切な場ですので、従業員も進んで参加しています。またぎゅーとら店舗・本社でも「クリーンデー」と称して、毎月早朝清掃を実施しています。

●CSR活動ではお客様・地域の皆様に喜んでいただけるイベント・キャンペーンを実施しています。親子で自然とふれあう「大内山牧場ツアー」、食育を通して食の大切さ・食の成り立ちを伝える「保育園・幼稚園でのお餅つき」、地域のスポーツイベントなど、CSR活動の一環として取り組んでいます。

これからも「ふれあいたいせつ」をモットーとして、お客様や地域の方々に「ありがとう」と喜んでいただける店作りやCSR活動を行なっていきます。



道路周辺まで行なう店舗の「クリーンデー」



自然とふれあう大内山牧場ツアー

クター、もぐらの「クルテク」の作者。日本でも「もぐらとじどうしゃ」や「もぐらとずぼん」という絵本が出版されています。今回はクルテク以外の人気シリーズ、「コオロギくん」と「知りたがりワンちゃん」他を上映。セリフは、ほとんどありません。絵本を見る感覚でどうぞ。
【B番組:ヨゼフ・パレチェック作品/字幕あり・6作品59分】
ヨゼフ・パレチェックは『最も美しい絵本賞』のほか、たくさんの賞を受賞した有名な絵本作家ですが、映像作家としても優れた作品を作っています。彼独特の色彩感覚を堪能してください。

●問い合わせ先/青春キネマ館&キッズシアター上映実行委員会
Tel.0596-23-0839

日野原重明先生・三重フォーラム

●とき/8月28日(火) 14:00~16:15

●ところ/三重県文化会館中ホール

●参加費/1000円(全席自由) ●募集人数/800人

●内容/95歳の現役医師、日野原重明さんは、終末期医療や音楽療法の普及に取り組まれるなど、日本医療の最先端での活躍をはじめとして、『生き方上手』に代表される多数の著作や国内外での講演活動、「新老人の会」の活動など多方面で活躍されています。やさしく語りかけるかのような調子で話される内容には、各年代の方々が、これからの人生を有意義に生きるヒントがたくさん詰まっています。今回は、講演後に、「歌う弁護士」大塚いく子さんによる、歌や踊りのにぎやかなステージも予定しています。

●主催・問い合わせ先/三重県生涯学習センター

Tel.059-233-1151 Fax.059-233-1155

E-mail manabi-kouza@center-mie.or.jp

ホームページ <http://www.center-mie.or.jp/manabi/>

●共催/「新老人の会」三重ランチ

ひきこもり対策研修会

●とき/8月29日(水) 13:30~15:30

●ところ/三重県男女共同参画センター多目的ホール

(津市一身田上津部田1234) ●募集人数/約300人

●内容/「ひきこもり」は、様々な要因が重なっておこる現象であり、個性が高く、その支援方法も多岐に渡ります。早期の段階でのかわりと、長期化し高齢化したケースへの支援対策の構築が必要であり、複数の機関による連携が求められています。今回は、長年不登校やひきこりの相談に関わってきた中央大学文学部教授で、臨床心理士である横湯園子さんの具体的な事例を通して、ひきこもりについての理解を深め、実際の支援や課題について共に考えるために研修会を行います。

●応募締切/8月16日(木) ●申込方法/電話またはFax。

●問い合わせ先/三重県こころの健康センター

Tel.059-255-2151 Fax.059-255-2835

ミ二人権大学講座「外国籍DV被害者への支援」

●とき/8月30日(木) 13:00~16:00

●ところ/三重県伊賀庁舎4階第3・4会議室

(伊賀市四十九町2802)

●参加費/500円(資料代) ●応募締切/8月20日(月)

●内容/三重県における移住外国人労働者数は3万人を超えようとし、家族間の諸問題が多様化してきています。DV事案も多くあります。移住女性の受けるDV被害の特有性と、支援の実務的な問題と方向性については苦慮されるところであり、当事者達の問題は深刻化しているように思われます。「外国籍DV被害者への支援」に関する研修会は県内でも初めての取組です。講師には大阪で活動をしている、外国人女性・子どものための相談機関「くろーばー」事務局長の尾上皓美さんをお招きします。

●問い合わせ先/DVヘルプライン・MIE Tel.090-9223-3351 Fax.0595-21-8991

三重県伊賀県民センター生活課 Tel.0595-24-8137

Fax.0595-24-8010 E-mail gkenmin@pref.mie.jp

ボランティア日本語教師養成講座 実践:日本語教育

●とき/9月1日(土)午前の部10:00~12:00 午後の部13:30~15:30

●ところ/三重大学総合研究棟II1階メディアホール

●内容/受講条件は日本語を教えてみたいと思っている方、ボランティア日本語教師、日本語教育関係者。午前は4人の上級レベルの日本語学習者が語る「会話上達編:日本語会話における上級話者へのアプローチ~指導へのヒント」。午後は早稲田大学大学院日本語教育研究科、川口義一教授による講演「日本語指導の秘訣 学生を乗せて、上達させる教室活動一挙紹介!」です。

●申込方法/申込書は三重大学学術情報学部国際交流チーム国際交流担当か三重大学知の支援センター(アスト津3階)で入手するか、国際交流センターのホームページ(<http://www.cie.mie-u.ac.jp/ja/>)からダウンロード。

●問い合わせ先/福岡昌子(三重大学国際交流センター准教授)

Tel.&Fax.059-231-9698(研究室直通)

E-mail fukuoka@cie.mie-u.ac.jp

乳がん体験者の会 あけぼの会三重支部おしゃべり会

●とき/9月1日(土) 13:00~15:00 ●参加費/無料

●ところ/じばさん三重5階情報交換室・2(四日市市安島1丁目)

●内容/乳がん体験者ならどなたでも、参加できます。ピンクの帽子が目印です。

●問い合わせ先/小野節子 Tel.0596-25-3426、090-2944-4773

ネットワークのよびかけ

あなたも自然観察のボランティアリーダーになりませんか 第407回NACS-J自然観察指導員講習会・三重県

「NACS-J自然観察指導員」は、地域で活躍する自然観察・環境教育のボランティアリーダーです。“自然観察から始まる自然保護”を合い言葉に、みじかな自然をフィールドにして、自然の楽しさ不思議さを伝え、自然とのつきあい方を考える自然観察会を続けています。1978年から始まった講習会は、全国で2万人以上の方々が受講され、活躍しています。県外からの参加も可能です。

●とき/10月19日(金)~10月21日(日) 雨天決行

●ところ/三重県立熊野古道センター(現地集合・解散)

●参加費/一般 39,400円、NACS-J会員 34,400円(2泊6食、受講料、初年度登録料、保険料、テキスト代を含む)

●募集人数/60人

●応募期間/【県内の方】8月1日(水)~9月18日(木)必着

●申込方法/申込書と返信用封筒を郵送かE-mailで下記まで。

●申込・問い合わせ先/【県内の方】515-0072 三重県松阪市内五曲町34-8 木原 方 自然観察指導員三重連絡会

Tel.:0598-23-0856、090-3481-3637

Fax.0598-23-0856 E-mail hisayo@mctv.ne.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/pochift/nacsmie/>(申込書のダウンロードもできます)

●主催/(財)日本自然保護協会・自然観察指導員三重連絡会

自然体験活動リーダー養成講座

大杉谷自然学校では、毎月子ども向けの自然体験活動を実施しています。その際、子どもたちのリーダー(活動促進役)をしてくださる方を募集しています。この講座にご参加いただき、ボランティア制度

にご登録いただくと、情報が配信されます。参加対象は自然体験活動や環境教育に関心のある18歳以上の方です。講座の内容は自然体験活動の基礎技術・指導法、安全管理についてなどです。

- とき/9月22日(土)12:30~9月24日(月・祝)16:00
- ところ/高田青少年会館(津市一身田町) ●募集人数/20人
- 参加費/17500円(宿泊・食費込)、9000円(宿泊・食費無)
- ※CONE資格希望者は別途2700円が必要(登録料・資料代)
- 主催・申込・問い合わせ先/519-2633 多気郡大台町久豆199 大杉谷自然学校 Tel.0598-78-8888 Fax.0598-78-8889 E-mail osn@ma.mctv.ne.jp

通訳・翻訳ボランティア派遣制度

(財)三重県国際交流財団(MIEF)の「通訳・翻訳ボランティア派遣制度」では、県内で実施される国際交流・国際協力事業や、多文化共生事業の推進に協力するため、「通訳・翻訳ボランティア」を紹介しています。通訳・翻訳の活動内容は次の通りです。

【通訳】外国からの訪問者のアテンド通訳、レセプションでの通訳、学校での通訳など。

【翻訳】自治体などの案内文書やパンフレットなどの翻訳、国際交流イベントのチラシの翻訳など

●利用できる方/三重県で行われる事業や活動で、国際交流・国際協力・多文化共生の推進を目的としていること。

国、地方公共団体、教育機関、国際交流団体であること。

●派遣費用/【通訳】3時間以内1000円、3時間以上2000円

【翻訳】1000円/A4用紙1枚。

活動のために必要な交通費及びその他実費(食費など)、ボランティアの活動保険。

●問い合わせ先/514-0009 津市羽所町アスト津3階

(財)三重県国際交流財団(MIEF) Tel.059-223-5006

Fax.059-223-5007 E-mail mief@mief.or.jp

ホームページ <http://www.mief.or.jp>

「新しい公共サービスの創造と市民社会」セミナー

新しい時代にふさわしい自治の姿や地域社会は、住民自治に溢れる「住民と行政が一体化した自治」にあります。このセミナーでは、いかに住民と行政が「協働」して地域づくりを進めるか、行政の立場から住民参加による公共サービスのあり方及びNPOなど住民側の公共への参画など、「新しい公共サービスの創造と市民社会」をテーマに三重大学人文学部教授の児玉克哉さんを座長にお迎えし、自治研究とセミナーを開催します。なお、このセミナーは年間5回通しです。詳細や個別日程の参加希望者は問い合わせを。

●とき/8月1日、9月5日、10月3日、11月7日、平成20年1月23日(全て水)時間は全て13:30~16:30

●ところ/(財)三重県地方自治労働文化センター

(津市栄町2丁目361番地)

●参加費/県職員・市町職員・個人会員・加入団体構成員は無料。それ以外の一般1000円(全回通し分・資料代)

●募集人数/30人程度(先着順)

●申込方法/氏名、所属(市町名)及び役職、連絡先(電話、Fax、E-mail)、郵送物送付先(住所)を明記し、FaxまたはE-mailにて。

●申込・問い合わせ先/三重県地方自治研究センター

Tel.059-227-3298 Fax.059-227-3116

E-mail info@mie-jichiken.jp

人格の有無は問いませんが、持続性のあることを原則とします。

●助成の対象となる活動/1.宗教的精神に基づく社会・平和活動。

2.地域のエンパワーメントを創生する活動。

●対象事業の期間/平成19年11月1日から1年間。

●助成の額/1件あたり上限100万円。

●応募方法/申請書類はホームページからダウンロードするか、下記まで電話、Fax、E-mailにて請求。応募は郵送のみ受付。

●問い合わせ先/(財)庭野平和財団助成係 166-0022 東京都新宿区新宿1-16-9シャンヴィラ・カテリーナ5階 Tel.03-3226-4371

Fax.03-3226-1835 E-mail grant@npf.or.jp

ホームページ <http://www.npf.or.jp/>

日本財団アジア・フェローシップ(APIフェローシップ)

●受付締切/8月31日(金)

●活動テーマ/1.アイデンティティの変容とその社会的・歴史的・文化的背景

2.人類が直面する社会的課題と社会正義の考察

3.グローバル化の現状とその課題

●助成の対象/【APIシニア・フェローシップ】

応募締切日に40歳以上であること(例外を認めることがあります)。出身国・居住国以外の国で、研究・交流活動に従事できる能力と経験を有すること。提案した研究・交流活動を、出身国・居住国以外のAPI参加国で行うこと。提案した研究・交流活動を、1~12ヶ月の間、継続して行うこと。但し、活動国が複数ある場合は、1ヶ国に最低1ヶ月以上継続して滞在しなければならない。APIフェローシップの研究・交流活動の成果を広く社会に還元する能力・影響力・手段を有すること。

【APIフェローシップ】

応募締切日に40歳未満であること(例外を認めることがあります)。

出身国・居住国以外のAPI参加国で、提案した研究・交流活動に取り組む能力と意欲を備えていること。将来、その専門分野において大きな貢献のできる可能性を有すること。提案した研究・交流活動を、4~12ヶ月の間、継続して行うこと。但し、活動国が複数ある場合は、1ヶ国に最低1ヶ月以上継続して滞在しなければならない。提案した研究・交流活動は、出身国・居住国以外のAPI参加国のうち1カ国または2カ国で行うこと。

●応募方法/募集は5カ国で行われています。申請書などはホームページからダウンロードして使用し、必要書類と合わせて郵送するか、オンラインで応募。応募方法の詳細はホームページを参照してください。

●問い合わせ先/京都大学東南アジア研究所 APIフェローシップ事務局(担当:前野尚子、安原聡子)

606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 Tel.075-753-7348・

7391 Fax.075-753-7350 E-mail api@cseas.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/api/>

(財)大和証券福祉財団助成

●受付期間/8月1日(水)~9月15日(土)消印有効

【ボランティア活動】

●助成の対象となる団体/ボランティア活動を目的とした団体・グループ。学生・若者のボランティア活動に積極的に支援します。社会福祉協議会・共同募金会などの推薦が必要。

●助成の対象となる活動/特に在宅老人、障害児・者、児童問題などに対するボランティア。

●対象事業の期間/原則として平成20年1月~12月の活動

●助成の額/1件あたり上限30万円。総額5000万円(内500万円は災害時ボランティア活動に対する助成)

【ボランティア活動等に関する調査研究助成】

●助成の対象となる団体/研究委員会を組織すること。

●助成の対象となる研究/ボランティア活動・地域福祉に係る実践的モデル事業開発に関する研究など。

●助成の額/上限100万円。3件まで

●応募方法/用紙の申請は電話、Faxまたはホームページからダウンロード。

●問い合わせ先/(財)大和証券福祉財団 103-8219 東京都中央区日本橋茅場町1-1-9 大和証券兜町ビル

Tel.03-3665-5147 Fax.03-3662-0495

ホームページ <http://www.daiwa-grp.jp/branding/kouken/dsf.html>

助成財団センターは、助成、表彰、奨学などを行う財団法人・その他の法人などの情報を収集し、活動内容を広く社会に発信していくことを主な目的としています。その情報は冊子で刊行されているほか、ホームページやファクシミリサービスでも閲覧できます。

(財)助成財団センター Tel.03-3350-1857 Fax.03-3350-1858
ホームページ <http://www.jfc.or.jp/>

助成金 ニュース

(財)庭野平和財団 活動助成(後期分)

●受付締切/8月13日(月)必着

●助成の対象となる団体・個人/個人・団体のいずれでも申請できます。(一個人、一団体に付き一件の申請に限ります)申請者の国籍、団体の場合の法

今日特集 行政とNPOの協働最前線を行く! PartⅢ

平成19年度NPOからの協働研究提案が決定!

◆選定結果

7月17日、「平成19年度NPOからの協働事業等提案」の協働研究提案部門の公開審査会が開催され、「三重県の間支援助センターの目指すべきあり方の研究」(特定非営利活動法人いせコンビニネット)が採用、「いつでもだれでも学び再チャレンジ



提案先の三重県担当室からも意見をもらう

事業の研究」(特定非営利活動法人チャレンジスクール三重)が条件付採用となりました。

他にもDV防止のための予防教育や啓発、動物愛護の普及と

啓発等、日頃の活動の中でNPOが"壁"と感じている事柄について行政と共に研究し、解決していきたいという熱い思いの伝わってくるプレゼンテーションでした。

具体的な事業やイベントの提案とは違い、今回は研究提案ということで、行政と共に「何について」「どのように」具体的な研究を進めていくのか、「最終的な成果は何か」ということを示す難しさを感じました。

◆今後のスケジュール

採用された提案については、今後、提案したNPOと提案を受けた行政との間で、課題を共有するため、研究の具体的なスケジュールを決めて進めていきます。



担当室と審査員に課題を訴えかける

中間 市民活動(支援)センター 支援 情報交換会

市民活動(支援)センター情報交換会は、それぞれのセンターの持っているノウハウを共有したり、共通の課題に一緒に対応していこうという趣旨で開催されています。

本年度は、昨年提出された関心事を基に、先進事例の紹介や互いの取り組みについて情報交換を行っていきます。



NPO法人Mブリッジ

第1回目を7月10日に「NPOの資金確保」をテーマとして行いました。

平成18年度に実施された、資金地域モデル2事業(いせコンビニネット「伊勢版PANDAファンド」とMブリッジ「資金の森」)の

取り組みを教えていただき、各地域で行っているNPOの補助・助成金の状況や仕組みづくりについて進み具合など各担当者からご紹介いただきました。

潜在的寄付者の掘り起こし、NPOの活動アピール力の弱さ、支援方法等について検討しました。



NPO法人いせコンビニネット

地域 《伊賀》企業と連携した 情報 市民活動無料相談会

W.T.Aまちづくりセンターでは、「会計・税務」に対する相談が多ことから、毎月1回、企業の専門家の協力を得て、無料相談会を開催しています。

事前に電話で相談内容と希望時間を予約していただくと、当日必要な持ち物等をお伝えしています。開催当日に都合がつかない場合でも、日程を調整して対応しております。

相談会では、会計・税務以外にも、パソコン活用(ワード、エクセル、ホームページ作成、インターネットなど)、申請書類作成など、幅広くお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせください。

伊賀市周辺のNPO・市民活動団体だけではなく、どの地域の団体でもOKです。皆様からのご連絡をお待ちしております。

*相談会専用電話:0595-22-0072

【日時】土曜日 午前9時30分~12時

【場所】伊賀市市民活動支援センター 交流スペース

(〒518-1395 伊賀市馬場1128番地)

*開催日は上記専用電話にお問い合わせください。



W.T.Aまちづくりセンター長 中盛さん

問い合わせ: 三重県生活部NPO室
〒514-0009 三重県津市羽所町700番地 アスト津3階
TEL 059-222-5981 FAX 059-222-5971
E-mail seiknpo@pref.mie.jp
URL <http://www1.mienpo.net/npot/>

問い合わせ: W.T.Aまちづくりセンター
〒518-0867 三重県伊賀市上野福居町3317番地
E-mail nagi_47_4_3@yahoo.co.jp
URL http://blog.goo.ne.jp/w_t_a_matisen/

▶▶▶▶▶ **がんばれネットワーク** ▶▶▶▶▶

三重県内の市民活動団体の人をリレーで紹介していきます。但し、紹介するに当たってはルールがあります。1・同じ地域で無いこと。2・同じ活動分野で無いこと。さてどんな人がどんなふうに、つながっているのでしょうか。自宅を開放した「なのはな文庫」を運営している吉川美智子さんからバトンを受け取るのは、「ぐるぐる」の加藤小映子さん。信頼できる仲間たちと一緒にリサイクル、リユースの情報交換の場を作り、活動しています。

リサイクル情報交換の場を作る

……ぐるぐるの活動を始めたのは？

うちの子もたちが着られなくなった服などを誰かに譲りたいと考えた時、情報交換の場がないなと思ったのがきっかけです。そこで平成10年7月に、「売ります、買います、譲ります、譲ってください」という情報を掲載する「伝言板ぐるぐる」を旧嬉野町中川の川公会所に設置させていただきました。「ぐるぐる」という名前は不要品が人から人へぐるぐる回るという意味を込めて夫が名付けました。

……公会所に設置した理由は？

川公会所は旧嬉野町中川の北・中・南の三区が使用している公会所ですので、たくさんの人に見てもらうために一番いい場所かなと思って。各自治会の会長さんにお話したら、掲示板を作る費用も三区の予算から出してもらえました。掲示板にはカードが備えつけてあり、そこに情報を書き込んでもらって、掲示しましたが、もっとたくさんの人に情報を届けたいと思うようになり、A3用紙に情報を書き込んだ掲示板のダイジェスト版を毎月作り、あちこちに貼らせてもらうことにしました。今はカードの掲示はなく、ダイジェスト版が「伝言板ぐるぐる」という名前になっています。

……掲示場所はどうやって見つけたのですか？

クリーニング屋さんや小児科医院さん、Aコープさんなど、普段からお付き合いのある所をお願いしました。最初は5軒くらいだったのが少しずつクチコミで増えていき、今は津市や旧松阪市の方まで広がって、39ヶ所になりました。「うちにも貼らせて」とありがたいお電話をいただくこともありましたが、なかには「色塗りが大変なら、こちらで塗るよ」とおっしゃってくださった方もありました。

……「伝言板ぐるぐる」は手書き文字の原稿をコピーして、一枚、一枚、色鉛筆などで色を塗っていますね。手間が掛かるでしょう？
確かに手間はかかりますが、私はアナログ人間なので、これをパソコンで作れと言われたら、発行は半年に1回くらいになってしまいます(笑)。それに活字で白黒の物より、色鉛筆などで塗ってあったり、イラストや写真がたくさん使っている方が興味を持ってもらえるかなと思って。色塗りは最初は私一人でしたけど、今は会員さんが色塗りと配達を手分けしてくれています。毎回、同じ人が配りに行くとお店の人も顔見知りになって、届けに行くと「待ってたよ」と声をかけてもらえるような、信頼関係ができてきますね。



ぐるぐる代表

加藤小映子 さんに 聞く

……色塗りをみんなでするのがいいですね。

色の塗り方にも個性が出ますから、元の原稿は同じでも、まったく違う雰囲気の商品が掲示されていますよ。活動を始めた当初は小さかったお子さんが、大きくなって色塗りを手伝ってくれることもあります。会員のお子さんの成長に合わせて、小学生までを対象にした子ども会員というのもしました。

……子連れで会議などをしていたのですか？

お母さんというの一人では家を出にくいものです。ましてやこの活動は仕事でも、学校行事でもありませんからね。気兼ねなく家を出る方法を考えた時に一番良かったのが、子どもや家族と一緒に来ることでした。子どもたちが「ぐるぐるに行くなら、私も行く」という雰囲気になれば、土曜日や日曜日でも出やすくなります。

……高学年になると一緒に来なくなりませんか？

女の子が多かったことと、年1回のフリーマーケットを楽しんでくれていたから大丈夫でした。ぐるぐるマーケットは当日も開始前後はスタッフ、始まったら出店者というように、自分のやりたい形で関わられるので、子どもたちも関わりやすかったと思います。あと、クリスマス会や七夕など子どもたちの好きな企画も考えました。

子どももスタッフ! ぐるぐるマーケット

……フリーマーケットは年1回開催ですか？

年1回、去年で8回目を迎えました。第1回はおかの医院さんの駐車場をお借りして、40店くらい出店がありました。その後、場所をAコープさんの駐車場や嬉野ふるさと会館前公園などに移して、徐々に参加者の方も増えてきました。

……最初は民間の駐車場を借りていたのですか？

主婦のグループが開いているフリーマーケットですから、行政の方からご理解いただけるまで少し時間がかかりました。でも、NPO室を紹介していただいて、県や環境県民会議さんの後援をいただいたり、活動を続けていく内にご協力いただけるようになりました。

……開催の趣旨は？

リサイクルやリユース、環境問題について関心を持ってもらい、楽しく体験してもらおうというのが趣旨です。また、人々の交流の場として、地域のコミュニケーションづくりにもなればと考えています。この考えに賛同していただいた方だけ出店してもらいたいの、必ず事前説明会を開いてきました。

……問題が起こったことは？

6回目は雨で困りました。雨天順延だったのですが、順延日も絶対に雨という予報で、急遽、ふるさと会館を借りることになりました。会館のご厚意でホールなどの無料スペースを全部開放していただき、助かりました。ただ、雨天開催を決めてから当日まで4日しかなかったのも、出店者への連絡やPRが大変で…。それでも、各方面のご協力で「どこかよそで、大きなイベントがあるのかなあ?」と思うくらい、雨の中をたくさんの方が来てくださり、とにかく驚きました。正直言って、私たちは自分たちがやれることをしているだけなので、たくさんの方が楽しみにしてくれるイベントになっていたことが感覚的にわかっていなくて…。と同時に、こんなに大規模になって大丈夫なのかと感じました。それに今回は体力的にも大変でしたから、「次、どうしよう?」とみんなに聞くと、いつもなら前向きな意見がどん

どん出てくるのに、この時だけは余り出てきませんでしたね。

……それでも7回目を開いたのは?

「それでもやりたい」という気持ちがみんなから伝わってきましたから。それで、雨天の心配をしなくていいよう、体育館を借りられるようお願いにいきました。スポーツ分野で活動されている現NPO法人うれしのスポーツクラブAFLECの皆さんのご理解、ご協力で無事に体育館を借りることができました。この時もたくさんの方に来ていただいたのですが、嬉しい反面規模が大きくなり、自分たちの手には負えないところまで来ているのも感じました。第8回は昨年11月に開催しましたが、スタッフの人数や時期、予算的にも開催は難しいと悩みました。そんな時に当時小学6年生だった子どもたちが「私たちがぐるぐるマーケットに参加できるのはこれで最後だから、やめないで」と訴えてきたので、「自分たちでやってみる?」と持ちかけてみたら「やる!」って。それで第8回はぐるぐるキッズフリーマーケットとして、スタッフも出店者も子どもたちというフリーマーケットを開催しました。

自分の住む所を住みやすくしたい、 自分たちの居場所を作りたい

……子どもたちに任せて不安はありませんでしたか?

この時は5・6年生が10人ぐらいと多かったし、第7回の時もスタッフとして動いてくれていたので、任せて大丈夫だなと思いました。ポスターづくりやケーブルテレビでの宣伝も子どもたちが行いました。各小学校へポスターとチラシ配布のお願いに行くのも、その小学校に通っている子どもたちが手伝ってくれましたし、メンバーが一番多い中川小学校の場合は、子どもたちだけで校長先生のところへお願いに行ってくれました。当日スタッフの行動も基本的にはお任せ。自分で判断して、良いと思ったことは実行。報告は事後報告で構いません。会場内には大人のスタッフもいますから、困った時にはすぐに相談に行くようには伝えました。

……事務作業は?

それは私が責任を持って担当しました。ポスターづくりにしても、最初に書いて欲しい内容を箇条書きにして渡して、後は好きなように描いてもらいました。希望者を募ったら11人が手を挙げてくれたので、それぞれ個性的なポスターができましたよ。

おばあちゃんになっても一緒に活動したい

……会員は何人?

ぐるぐるの予定を連絡網でお知らせしているのは38名で、その中で「伝言板ぐるぐる」を担当してくれているのが12名ですね。予定はお知らせするだけで、強制はせず、自発的な参加を待つだけです。やっぱり自分たちで楽しんで、やりたい人だけが参加しないとイベントも面白くないですね。だから出入りも自由、その辺は柔軟です。忙しくなったなら止めてもいいし、休会でもいい。お茶会やランチもしていますから、その時だけ参加される方もいます(笑)。

……加藤さんの役割は?

事務的なことをするのが好きなので、そこは任せてもらっています。その代わりにフリーマーケットの実行スタッフなどは、他の人がばーっと動いてくれます。適

材適所というか、役割分担できていますね。信頼できるメンバーが揃ってますし、こういった活動はメンバーを信頼できないとできません。私は「人のために、私がやるのだ」ではなく、「自分にできることが、誰かの役にたっているかもしれない」「みんな



第1回ぐるぐるマーケットの時から、子どもたちが出店しています。

に動かしてもらっている、させてもらっている」という謙虚な気持ちを忘れないように活動しています。活動を始めた頃は「ボランティアをしているんだ!」って、すごく意気込んでいたこともありましたが、その態度や行動が会員さんに迷惑を掛けたことがあって…。

……気持ちが変わったきっかけは?

悩みを聞いてくれた会員さんが「私たちはやらされているわけじゃない。楽しいから、加藤さんと一緒にやっているんだよ。おばあちゃんになっても一緒に活動したいよね」と話してくれて、目からウロコが落ちました。私、堅物なので「ボランティアグループは、こうあらねばならない」という期待やイメージにこたえようと頑張って、それが強迫観念のようになって、自分の考えを狭くしていたみたいです。彼女たちのおかげで、肩の力が取れて、「ずっとこの会員さんたちと一緒に、自分たちのやりたいこと、やれることを楽しくやってみよう」という気持ちになれて、すっかり気が楽になりました(笑)。

……会員の関係、活動内容。実にゆるやかな雰囲気ですね。

これは笑い話ですが、会員の中には友だちから「あなた、ボランティアしているの?」と聞かれて、「ボランティアなんてしてないよ」と真顔で答えた方がいたと聞きました(笑)。周りから見たらぐるぐるの活動はボランティアだけど、本人は人のためにしているわけでもないし、苦労でもないからボランティアという感覚が無いの(笑)。会員の関係も、子どもたちが小さい時は、子どもを中心とした関わり方でしたけど、徐々に大人が楽しめることをするようになってきました。子どもが巣立って、母親業が終わったり、退職したりした時に地域に自分の居場所がなかったら、すごく寂しいですよ。私たちは今、その居場所を作っているのだと思っています。最初は子育てや環境に力を入れ、フリーマーケットではまちづくりも考えました。そうやっていろいろな事に関わりながら、自分の住む所を住みやすくしたい、自分たちの居場所を作りたいというのがメンバー全員の想いだと感じています。だから、今、柔らかい感じで続けていけるのかな。

……まさに誰もができるボランティアという気がします。

仲のいいお友だち同士が集まれば、どなたにでもできると思いますよ。ただ、続けていくにはちょっと体力がいりますけど(笑)。

ぐるぐる事務局

515-2321 松阪市嬉野中川町1361-1(プラス設計室内)

Tel.0598-42-5363 Fax.0598-42-8388

ホームページ http://www.geocities.jp/den_guruguru/

加藤小映子さんはこの人を **紹介** します。

多賀輝宏さん

特定非営利活動法人三重補助犬普及協会理事長。自ら視覚にハンディを持ちながら、市民活動の場で活躍されています。

お
ね
が
い

市民活動・ボランティアニュースに情報を提供される際、以下のことにご注意ください。

(1) 原稿はニュースにそのまま掲載できる状態にして、毎月10日までにお送りください。

(2) 送付はE-mailもしくはFaxで。その際、「市民活動・ボランティアにニュースへの掲載のお願い」と件名を明記してください。

Fax.059-222-5971 E-mail seiknpo@pref.mie.jp
転載を希望される場合は必ずNPO室に連絡してください。

古紙100%、白度83.5%の紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。

「伝言板ぐるぐる」。加藤さんの手書き原稿を白黒コピーした物に、会員が色鉛筆などで色をつけています。優しい紙面に情報が溢れています。